

国土形成計画のモニタリングの あり方に関する論点整理

国土形成計画のモニタリングのあり方に関する論点整理

資料 2

「モニタリングシステムの概念」と、「国土形成計画のモニタリング」、「国土をめぐる様々な情報のモニタリング」の各レベルから、総合的に「国民にわかりやすいモニタリング」を目指す。

モニタリングシステムの概念

【広域ブロックとの連携】

広域地方計画協議会に対し、方針を早めに伝達した方がよい。

広域・自治体の動きが国土形成計画と整合してるか確認も必要。
国土のモニタリングは全国の見地から評価する形の方がよい。

【多様な主体の参画できるシステム】

ターゲットを分類して必要な情報を分析していく方がよい。
情報を重ね合わせた内容がアップロードできれば、利便性向上。
これまでの重視してきたデータ・GISシステムに合わせてモニタリングを検討することも考えられる。

モニタリングを使って課題を探っていくということも必要。
地域の取り組みをアップロードするシステムやどの地域が頑張っているかなどが分かるようになっていけばよい。そういったことが全員参加ということにつながる。
情報のアップロードには情報の客観性を確保する必要がある。

多様な主体の参加を促進する「国民にわかりやすいモニタリング」

【指標自体のわかりやすさ】

国民生活の改善に及ぼす効果や満足度が適切に把握できるようなモニタリング指標。
評価への一般人の参画は、時系列を考える必要がある。

【表現によるわかりやすさ、利用しやすさ】

地域的・時系列的に情報アクセスを可能にすべき
国民との情報の共有・プライバシー

【国土形成計画のマネジメントサイクル】

戦略的な目標などの目的に照らして評価するのがいい。
民間でモニタリングは目標達成するためのプロセスを管理するもの。現在の国土モニタリングのサイトは定点観測に近い。
国土形成計画に目標値が書かれているのを見たことがない。
アウトプットだけでなく、予算がどのくらい使われたか、ソフト面での対策などインプット情報も必要。
多様なソフトの施策をチェックするとよい。

【既存システムとの連携】

基礎インフラとして、統計をしっかり作ってることが重要。
平成22年に予定される経済センサスとの整合などにも配慮。
国土情報整備室の資料を自由に利用可能にできないか。

【計測メッシュ】

メッシュが細くなっているが、細かすぎると不向き。

【モニタリングに適したデータ更新スパン】

土地利用メッシュは重要だが、更新間隔が長く、モニタリング時までの変化を把握できないことも考えられる。
土地利用は大まかな分類だけにして期間を短縮するべき。
地図情報とオンタイムのデータとリンクしていけないか。

国土形成計画のモニタリング

国土をめぐる様々な情報のモニタリング

赤字：第2回研究会意見、黒字：第1回研究会意見